

半田病院の早期建て替え

最優先で進めなければならないのが、新半田病院の建設です。

半田病院は、救命救急センターの指定も受ける、知多半島医療圏最大規模の中核病院として、ほぼ全ての救急疾患に24時間対応し、災害拠点病院の機能を有する重要な役割を担っています。

新病院では、現在の機能を継続しながら建て替えを契機としたさらなる発展に向け、最大の懸案であります災害時のリスクの軽減策をしつかりと講じ、市民の皆様及び近隣の皆様の安心・安全を守るための病院を一日も早く建設してまいりたいと思います。

今回の選挙を通じ、新病院の建設場所について高台移転を望む声が多く、市民の皆様のご懸念を痛感しております。

しかしながら、新病院建設の早期実現の必要性、幅広い病院利用者の利便性、医師の確保も含めた病院全体の経営の観点など、総合的に考えて現在の市職員駐車場に建設することが、最も良い選択だと思っております。

地盤や災害に対する皆様の不安をできる限り払拭し、少しでも早く移転することが大切であると思います。今後も万全の対策と市民の皆様への一層丁寧な説明に努めてまいります。

まずは私共の考え方を、8月に開催する市政懇談会で十分説明をさせていただきます。

コミュニティバスの運行

本市の新たな地域公共交通の創出にご提言を頂いている名古屋大学の加藤博和教授の言葉を借りれば、これからのコミュニティバスは「乗って楽しく、降りても楽しいバス」でなければなりません。



市民の皆様がお出かけしやすく、また、半田市を訪れる観光客の方にもお勧めできる、利用しやすい公共交通を皆様といっしょになって創出してまいります。

今後、「半田市地域公共交通会議」の議論を踏まえ、各地域の皆様にご協力を頂きながら、来年10月には実証運行が実施できるよう進めて

まいります。

また、市民の皆様から親しまれ、愛されるバスとなるよう、バスの愛称を公募してまいります。

教育子育て施策の更なる充実に向けて

子育て支援にも一層力を入れてまいります。

私にも2人の孫がいます。息子夫婦の子育てを通じ、昨今の社会の変化から、子育ての難しさが増していることを感じています。

本市には、幼稚園、保育園、こども園が約30施設あり、就労状況等に合わせた教育・保育施設を選ぶことができるという基本ポテンシャルの高さは、大きな強みであります。

また、「つくし学園」、「ふたば園」といったお子さんの心身の発達に配慮した療育施設や、今年4月から、病氣中または病氣回復期で保護者の就労などにより家庭での保育ができない児童をお預かりする病児保育施設「げんきの芽」を開設し、子育て世代のニーズに沿った整備を行ってまいりました。

これらの施設整備とともに、今後は、保育需要が増加していくことが見込まれるなか、安心してご利用いただける学童保育の提供など、教育・保育機能の充実（ソフト的整備）を図ることが重要です。



▲病児保育施設「げんきの芽」

そのため本市では、子どもたちが楽しく過ごせる生活の場としての体制を整えるべく、小学校や既存の公共施設の活用などによる施設面の整備、指導員の資質の一層の向上に向けた研修機会の提供など、適切な支援策を進めてまいります。

保護者の皆様が、子どもたちをより安心・安全に預けていただける体制を、早期に整えてまいります。

※市民ファーストで取り組む他の施策につきましても、このサービスエースを通じて順次伝えてまいります。

